

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

「お互いさま」「おかげさま」でよりよい社会を

長崎県モラロジー協議会発行の小冊子「道徳を考える月刊誌 ニューモラル」に、「自分が落としたのではないゴミを捨てるかどうか」という問題から、「よりよい社会づくりについて考える」ことが取り上げられていました。以下、要点のみをご紹介します。

「ゴミは自分が散らかしたわけではないし」「自分がやらなくても、ほかの誰かがやるだろう」といった気持ちがわき起こるかもしれません。

私たちの日常生活は、家庭や学校、職場、地域社会など、多くの人たちとの関わりの中で成り立っています。そこには、もともと「誰の役割」というように明確には決まっていないこともあれば、「誰がやってもいいことだけど、誰かが率先してやらなければ物事が進まない」という場合もあります。だれがやってもいいことなら、自分が一歩踏み出して、その「誰か」になってみようという心がけも必要なのかもしれません。

自分のこととして、責任を感じる範囲を広げていくと、社会全体がよりよいものになっていくのではないのでしょうか。

よりよい社会があってこそ、私たちは安心して暮らすことができます。そして私たちは、社会に支えられていると同時に、社会を支えている存在でもあります。私たちは、自分自身の日常を支えてくれている「誰かの力」に感謝するとともに、「お互いさま」「おかげさま」の思いで、進んでよりよい社会づくりのために尽くしていきたいものです。

年末・年始を始め、子どもたちも家庭や地域で掃除等を行う機会があるかと思えます。家庭や地域を支える存在として、進んでこうした活動に参加し、すがすがしい気持ちになってほしいと願っています。

祇園歴史の旅（その27）「綾なす歴史のたて糸よこ糸 語りつたえよう中部地区のこと（その3）」

中部地区町内協議会設立25周年記念誌（平成20年発行）、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。「(前号から続く)鳥瞰と海軍軍港建設以前の『佐世保原図』を描いてみたのが以上です。上空から眺めたとおり、私たちの地形は烏帽子岳から裾野に下り、海に入る区割りで成り立っています。名切谷の名切免、小佐世保川流域の小佐世保免。この大きな区割りが中部地区公民館の地域です。

免の下に字が付き、昔で言えばこの公民館の住所は『佐世保村小佐世保免字どどろ川内』です。鳥瞰で見た地名で、現在の町名となっているのは島地町、浜田町、宮崎町、京坪町で、上京、下京は京坪のあやかり地名です。また、小佐世保という免の名は、現在の元町付近から俵町にかけての佐世保を本家と見立て、よくある“小京都”と同様の小佐世保、としたのでしょう。

京ノ坪の地名は、おそらく末法の世になったと言われた平安時代末に生まれたと思われます。仏教で言う末法の世は、仏陀の力で救われなく世の中です。そこで56億7千万年後に、釈迦如来に代わって人々を救う弥勒如来の世に期待して、伝えたい経文を土に埋めた経塚が営まれた地から出たのではないのでしょうか。その『経』の文字が『京』に変化したと思われます。人々の生活は常に川の水と共にあり、流域が小佐世保谷の一つの生活共同体でした。柚木から中里・相浦までの相浦川流域を『相浦谷』と総称するのがその好例です。」(完)

次回は、「川の流域は人の暮らしの場」と題して地名などをご紹介します・・・。